

① 申請者	奈半利町、田野町、 ◎安田町、北川村、馬路村	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
<p style="text-align: center;">森林鉄道から日本一のゆずロードへ ーゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化ー</p>			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>南国土佐の東に位置する中芸^{ちゅうげい}地域。かつて西日本最大の森林鉄道が駆け巡った中芸は、林業に代わる産業としてゆず栽培に力を注ぎ、今や日本一の生産量を誇っている。木材を運んだ森林鉄道の軌道は、ゆず畑の風景広がる「ゆずロード」に生まれ変わったのである。</p> <p>川沿いや山間に広がるゆず畑を、小さくかわいい白い花、深く鮮やかな緑の葉、熟すとともに濃くなる黄色の果実が季節ごとに彩る景観。ゆず寿司などの風味豊かな郷土料理。中芸のゆずロードをめぐれば、ゆずの彩りに満ちた景観と、ゆずの香り豊かな食文化を堪能することができる。</p> <div data-bbox="194 1052 1396 1561"> </div>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	安田町役場経済建設課 小島 貴介 (「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会 事務局)		
電 話	0887-38-6714	FAX	0887-38-6780
E-mail	ysd-keizai@town.yasuda.kochi.jp		
住 所	〒781-6421 高知県安芸郡安田町安田 1850		

市町村の位置図



構成文化財の位置図



構成文化財の位置図

A 安田町



B 田野町・奈半利町



ストーリー

高知市内から東に約 50 キロに位置する中芸地域。日本三大杉美林の一つに数えられる杉林が広がる急峻な四国山脈の山並み。そこから流れる安田川と奈半利川の二本の清流には、日本一の天然鮎が泳ぐ。河口には、雄大な土佐湾を背景に、土佐漆喰や水切瓦、いしぐろ（石塀）が用いられた屋敷や酒蔵が建ちならぶ町並みが広がる。この中芸の地を、爽やかな香りで包み、目に鮮やかに彩るのが「ゆず」である。

日本三大杉美林と^{やなせ}魚梁瀬森林鉄道

中芸は、かつては林業で栄え、大木を伐る掛声が響く地であった。古くは弘法大師の時代から伐り出され、豊臣秀吉が洛陽東山佛光寺の大仏殿の建材に用いた銘木・魚梁瀬杉をはじめ、多くの木材を産出し、安田川・奈半利川に流して河口へ、そして海から日本全国へと送り出してきた。

明治末から敷設がはじまり、隧道や橋梁により中芸一帯を環状に繋いだ魚梁瀬森林鉄道、通称「りんてつ」は、木材の搬出だけでなく、トロッコで学校に通い、トロッコでお嫁入りなど人の暮らしを繋ぎ交流を生んだ。原始的杉林景観の残る千本山、材木業や回船業で名を馳せた豪商の屋敷が軒を連ねる町並みとともに中芸にちりばめられた 18 ヶ所におよぶ「りんてつ」の遺構群は、林業の隆盛とこの地の繁栄を象徴している。

林業からゆずへ ゆずが季節ごとに彩る中芸の風景

中芸のゆず栽培のはじまりは、江戸時代に遡る。当時、北川村で庄屋見習いをしていた中岡慎太郎が、自生するゆずに注目し、防腐や調味のために使えるようにと栽培を農民に奨励したとされ、現在もゆずの古木が山裾に残る。この地の暮らしに根づいてきたゆず栽培だが、それが産業として花開くのは 1960 年代以降のことである。

1960 年代、天然林が枯渇する中で、中芸の人びとは、林業に代わる新たな産業を探さなければならなかった。そこで力を注いだのが、ゆず栽培である。身近にあったゆずの魅力と価値に改めて注目し、それを産業化すべく、りんてつの軌道が敷かれた川沿いにある田畑をゆず畑に変え、木材を運び出していた山間では、山面の限られた土地に石垣を築き段々畑を開いた。昔ながらの有機栽培にこだわりながらも、日本初となる機械式柚子搾汁機の開発やゆず加工商品の開発にも積極的に挑戦していった。

こうして産業化が進められた中芸のゆずは、今では作付面積 200 ヘクタールを越え、日本一の生産量を誇る。近年では、ヨーロッパに輸出されるまでになり、ゆずの風味を世界に届けている。



中芸の風景
天然鮎が泳ぐ奈半利川



中芸独特の水切瓦



古い町並みに残る
いしぐろ（石塀）



りんてつ軌道跡に残る
明神口橋



森林鉄道の当時の様子が
わかる古い写真

ゆず畑では、初夏に小さくかわいらしい白い花を咲かせ、夏には深く鮮やかな緑の葉っぱと果実を輝かせる。秋を迎え、ゆずの果実が熟すとともに濃い黄色に色づく、あたり一帯に爽やかな香りが立ち込める。そうして収穫の時期を迎えると、ゆず収穫の安全祈願と初絞りを楽しむゆず祭りを皮切りに、ゆず満載の軽トラックや収穫の喜びにあふれる人びとで、中芸全体が活気づく。季節ごとに彩りを変える日本一のゆず畑が広がる景観を、目と鼻の両方で楽しむことができる。

ゆず香る中芸の食文化

古の時代から日本人が親しんできた風味であり、すまし汁の吸口に使われるなど「和食」に不可欠なゆずは、中芸の食文化にも欠かせない。

酸味が強く香り高いと評価される当地のゆずを皮ごと絞り、その持ち味を凝縮した「^{ゆのす}柚酢」は、酢の物に使ったり、刺身にかけて食べたりと普段の食事にはもちろん、ハレの料理にも欠かせない。ハレの日を祝い客人をもてなす宴席「おきゃく」では、この地を流れる清流を用いて醸された土佐酒やゆず酒とともに、地元の新鮮で多彩な山海の幸を大皿に盛った^{さわち}皿鉢料理が豪快に振る舞われる。皿鉢料理には、土佐湾沖で捕れたカツオなどの刺身、川で獲れるツガニの煮付けといった組物、そしてたっぷりの柚酢で仕立てる「ゆず寿司」が盛られる。リュウキュウ（ハスイモの茎）やタケノコなどの山菜を用いたゆず寿司、天然鮎や鯖などを一匹まるごと使ったゆず寿司を頬張れば、口いっぱいにゆずの爽やかな風味が広がる。

ゆずをふんだんに使って地元の幸を風味豊かに仕上げる郷土料理は、中芸の食文化として、今も人びとの暮らしのなかで受け継がれている。

「りんてつ」から日本一の「ゆずロード」へ

時代の変化をたくましく生きる人びとの手によって、中芸の風景は「林業」から「ゆず」へと変わり、木材を運んだ「りんてつ」の軌道は、ゆずを運ぶ「ゆずロード」に生まれ変わったのである。

中芸一帯を走るゆずロードをぐるとめぐれば、ゆずの香りと彩りに満ちた景観と、ゆずの風味豊かな食文化を満喫することができる。



初夏、小さく愛らしい
ゆずの花が咲く



収穫前のゆず畑
鮮やかな葉に果実を
輝かせる



収穫の秋
あたり一面に爽やかな
香りが立ち込める



ゆず祭りを皮切りに
中芸は収穫で
もっとも活気づく



ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の 所在地 (※4)
①	ゆず畑の景観	未指定	中芸地域の代表的な農産物であるゆずは、林業に代わって地域を支えた産業である。栽培面積は 213 ヘクタール、生産量は 3,000 トンを越え日本一を誇る。中芸地域の山間部を中心に、ゆず畑が広がっている。	中芸地域
②	ゆず料理	未指定	ゆずは 1000 年以上日本人に親しまれてきた和食には欠かせない食材である。中芸地域では、家庭料理だけではなく皿鉢料理や饗宴にも欠かすことはできない。柚子酢、ゆず寿司、ゆず酒などがある。	中芸地域
③	柚子の古木	北川村指定 天然記念物	北川村島集落に現存する樹齢 300 年を超える実生ゆずの古木。ゆずが、この地方で古くから人々の暮らしの中にあつたことがわかる。	北川村
④	ゆず さくじゅうき 柚子搾汁機	未指定	ゆずの産業化に先駆けて取り組んできた中芸地域では、柚子搾汁機も他地域に先んじて開発されてきた。	中芸地域
⑤	ゆずはじまる祭り	未指定	馬路村で毎年 10 月もしくは 11 月に開催される。ゆず収穫のはじまりを祝い、収穫の安全祈願と初絞りを楽しむ祭り。	馬路村
⑥	しんたろう 慎太郎とゆずの郷祭り	未指定	北川村で毎年 10 月に開催される。ゆず栽培を奨励した同村出身の中岡慎太郎の顕彰とゆずの収穫を祝う祭り。	北川村
⑦	なかおかしんたろうたくあと 中岡慎太郎宅跡	高知県指定 史跡	ゆず栽培を奨励した中岡慎太郎の生誕地。復元された生家がある。	北川村
⑧	なかおかしんたろう 中岡慎太郎 いはつまいそう ぼ ち 遺髪埋葬墓地	北川村指定 史跡	ゆず栽培を北川村に広めることに貢献した中岡慎太郎は、坂本龍馬とともに京都で暗殺された。出身地北川村には、遺髪が戻り、埋葬墓地が作られた。	北川村
⑨	せんぼんやま 千本山	未指定	良材として知られた魚梁瀬杉の天然林のほとんどが伐採されたが、千本山には、樹齢約 200～300 年になる原生林が残されている。魚梁瀬杉の巨木とともに、原始的景観を見ることができる。	馬路村

⑩	はんせいき 藩政期の植林地	未指定	江戸時代、土佐藩は魚梁瀬山を土佐十宝山の「名上」として、天然林の管理・伐採を行った。一方、森林保護の目的で杉の植林を積極的に行い、現在も植林地には杉の巨木が残っている。	馬路村
⑪	あさひでやま おおすぎ 朝日出山の杉	馬路村指定 天然記念物	中芸地域の名木のひとつ。推定樹齢 800 年の杉の天然木。朝日出集落には、イネとゆずの収穫を感謝する祭りがあった。	馬路村
⑫	ざいもくなが 材木流し（絵馬） だ け さかもとじんじゃ (多気坂本神社)	奈半利町指定 有形文化財 (美術工芸品)	中芸地域の林業の長い歴史の中で、森林鉄道が敷設される以前は、安田川・奈半利川を利用して材木を運んだ。当時の奈半利川の様子が絵馬に描かれ、多気坂本神社に奉納されている。	奈半利町
⑬	ざいもくなが 材木流し（絵馬） さんこういん (三光院)	奈半利町指定 有形文化財 (美術工芸品)	中芸地域の林業の長い歴史の中で、森林鉄道が敷設される以前は、安田川・奈半利川を利用して材木を運んだ。当時の奈半利川の様子が絵馬に描かれている。	奈半利町
⑭	木材生産用具 うまじむら (馬路村郷土館)	未指定	鋸、ちょうな、はつりちょうな、など人力により伐採が行われていた時代、山で木を伐り、集め、運ぶ仕事には欠かせない道具類。なかでも、土佐鋸は道具として洗練され、全国に流通した。	馬路村
⑮	こんりんじやくしどう 金林寺薬師堂	国指定 重要文化財 (建造物)	良材の産地として古くから知られている魚梁瀬の木材を使って、弘法大師空海が創建したと伝えられる金林寺。薬師堂には、一夜建立の伝説がある。	馬路村
⑯	きたでらしよぞうぶつぞうぐん <u>北寺所蔵仏像群</u> もくぞうやくしによらいざぞう ・木造薬師如来坐像 もくぞうしやかによらいりゅうぞう ・木造釈迦如来立像 もくぞうばさつぎょうりゅうぞう ・木造菩薩形立像 (1～5 号) もくぞうじこくてんりゅうぞう ・木造持国天立像 もくぞうぞうちようてんりゅうぞう ・木造増長天立像	国指定 重要文化財 (彫刻)	寺院建築のため、空海は安田川上流より木材を流した。途中で停留した木材から仏像群を造り、その場所に北寺を建立したと伝えられる。	安田町

⑰	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 ずいどう エヤ隧道	国指定 重要文化財 (建造物)	明治 44 年建設。ゆずロード上にある切石砂岩の空積みでつくられた石造隧道。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	安田町
⑱	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 じまづいどう バンダ島隧道	国指定 重要文化財 (建造物)	明治 44 年建設。ゆずロード上にある切石砂岩の空積みでつくられた石造隧道。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	安田町
⑲	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 ずいどう オオムカエ隧道	国指定 重要文化財 (建造物)	明治 44 年建設。ゆずロード上にある切石砂岩の空積みでつくられた石造隧道。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	安田町
⑳	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 みょうじんぐちばし 明神口橋	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和 4 年建設。ゆずロード上にある下路式の鋼製単トラス桁橋。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	安田町
㉑	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 かま が たにさんどう 釜ヶ谷棧道	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和 2 年建設。ゆずロード上にある現存する森林鉄道遺産唯一の石造アーチ橋。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	安田町
㉒	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 かま が たにばし 釜ヶ谷橋	国指定 重要文化財 (建造物)	大正 15 年建設。ゆずロード上にある安田川支流の釜ヶ谷谷川に架かる単線仕様の上路式鋼製単一形桁橋。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	安田町
㉓	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 ひらせずいどう 平瀬隧道	国指定 重要文化財 (建造物)	明治 44 年建設。ゆずロード上にある切石砂岩の空積みでつくられた石造隧道。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	馬路村
㉔	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 ご み ずいどう 五味隧道	国指定 重要文化財 (建造物)	明治 44 年建設。ゆずロード上にある安田川線開通時に建造された石造隧道。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	馬路村

②⑤	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 おちあいばし 落合橋	国指定 重要文化財 (建造物)	大正 14 年建設。ゆずロード上にある安田川に架かる単線仕様の上路式鋼製単二形桁橋。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	馬路村
②⑥	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 こうぐちずいどう 河口隧道	国指定 重要文化財 (建造物)	大正 4 年建設。ゆずロード上にある切石砂岩の空積みでつくられた石造隧道。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	馬路村
②⑦	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 いぬぼうばし 犬吠橋	国指定 重要文化財 (建造物)	大正 13 年建設。奈半利川支流の犬吠谷川に架かる単線仕様の上路式鋼製橋梁。ゆずロード上にある。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	北川村
②⑧	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 いのたにばし 井ノ谷橋	国指定 重要文化財 (建造物)	大正 13 年建設。奈半利川支流の笹ヶ瀬谷川に架かる単線仕様の上路式鋼製橋梁。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	北川村
②⑨	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 ほりがをばし 堀ヶ生橋	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和 16 年建設。近代に建造された充複式単アーチ橋で我が国最大級を誇る。ゆずロード上にある。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	北川村
③⑩	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 ふたまたばし 二股橋	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和 15 年建設。ゆずロード上にある我が国最大級の無筋コンクリート造橋。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	北川村
③⑪	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 こしまばし 小島橋	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和 7 年建設。奈半利川に架かる単線仕様の鋼製橋梁。ゆずロード上にある。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	北川村
③⑫	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬森林鉄道施設 たちおかにごうさんどう 立岡二号栈道	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和 8 年建設。ゆずロード上にあるコンクリートガーター橋。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	田野町

③③	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬 森 林 鉄 道 施 設 はちまんやまこせんきょう 八幡山跨線 橋	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和 8 年建設。田野町の八幡神社の参道としてつくられた跨線橋。ゆずロード上にある。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	田野町
③④	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧 魚梁瀬 森 林 鉄 道 施 設 ほうおんじこせんきょう 法恩寺跨線 橋	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和 8 年建設。三光院から南の旧道へ向かう跨線橋。ゆずロード上にある。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	奈半利町
③⑤	しせんあといこうぐん 支線跡遺構群	未指定	橋台、木橋、鉄道敷など、林業盛時を偲ばせる遺構群。探索ツアーなどに活用されている。支線跡遺構は、中芸地域全域に点在する。	中芸地域
③⑥	きゅううまじえいりんしょ 旧馬路営林署	未指定	旧馬路営林署の建物は、ゆず産業を牽引してきた馬路村農業協同組の本所として現在も活用されている。隣接する敷地にあるゆず加工場では、年間を通じて、工場見学を受け入れている。	馬路村
③⑦	のむらしききかんしゃ 野村式機関車 (動態展示)	未指定	奈半利町の工場で製造され、昭和期の森林鉄道で活躍した野村式機関車。馬路村魚梁瀬丸山公園に動態展示されている。	馬路村
③⑧	写真資料Ⅰ てらだぶんこ 寺田文庫	未指定	寺田正氏撮影による、昭和期の森林鉄道稼働時期の貴重な写真（高知市立市民図書館所蔵）。	中芸地域
③⑨	写真資料Ⅱ 四国森林管理局保存の 大正～昭和初期の林業 関係写真	未指定	創設期の貴重な写真を多く含む森林鉄道関係の写真群。林業遺産（日本森林学会）に認定されている。	中芸地域
④⑩	おかごてん 岡御殿	高知県保護 有形文化財 (建造物)	近世の豪商田野五人衆の岡家により、藩主宿泊所として天保 15 年に建てられた。材木業や回船業で名を馳せた岡家は、御用銀の調達などで土佐藩とも関係が深く、林政にもかかわった。岡家に関する史料が展示されている。	田野町
④⑪	濱川家住宅 蔵・離れ	国登録 有形文化財 (建造物)	水切り瓦が見られる酒造の蔵。高知を代表する土佐酒のほか、ゆず酒を作っている。	田野町

④②	南商店 店舗兼主屋 外塀・内塀	国登録 有形文化財 (建造物)	林業盛時に繁栄した中芸地域海岸部安田町を代表する商家建築。土佐漆喰、水切り瓦を見ることができる。	安田町
④③	旧柏原家住宅 主屋及び離れ 表門 東土塀及び西土塀	国登録 有形文化財 (建造物)	林業盛時を彷彿とさせる地元産の良材がふんだんに用いられた和風建築で、土塀は土佐漆喰で塗られている。一般公開され、和室は、講座等に利用されている。	安田町
④④	旧市川医院	国登録 有形文化財 (建造物)	天井板などに、現代では入手困難な地元産の良材が使われている。展示スペースとして活用され、郷土史などをテーマとする企画展が行われている。	安田町
④⑤	竹崎家住宅 <small>たかだや</small> (高田屋) 主屋 離れ 蔵	国登録 有形文化財 (建造物)	竹崎家の店舗兼住宅で、母屋は、平屋建商家建築の一事例。蔵は土佐漆喰壁に水切瓦を付けるなど当地方土蔵建築の特色を伝えている。林業と回船業で栄えた奈半利町を代表する建築。現在土蔵は、郷土資料の展示スペースとして活用されている。	奈半利町
④⑥	森家住宅 <small>きゅうのむらもくまてい</small> (旧野村茂久馬邸) 主屋 蔵 西石塀 南石塀 東石塀	国登録 有形文化財 (建造物)	土佐の交通王とされる野村茂久馬の邸宅。主屋、蔵には土佐漆喰、水切り瓦が見られ、西、南、東の壁は「いしぐろ」塀となっている。林業と回船業で栄えた奈半利町を代表する建築。	奈半利町
④⑦	<small>はまだのりひろけじゅうたく</small> 濱田典彌家住宅 主屋 かま屋 米あずかり場 土蔵 石垣塀	国登録 有形文化財 (建造物)	林業盛時、関西地方に材木運ぶ拠点として栄えた奈半利町には、豪商が軒を連ねた時代の面影が残る。濱田典彌家住宅は、その代表的な建築で、土佐漆喰の土蔵などが見られる。	奈半利町
④⑧	<small>ほしじんじゃ ゆみまつ</small> 星神社のお弓祭り	高知県 保護無形民俗 文化財	集落から選ばれ、からだを清めた 12 人の射手が、弓を射かけて五穀豊穡を祈願する祭り。神事のための共食では、ゆず寿司など、ゆずをふんだんに使った料理が振る舞われる。	北川村

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財 の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

① ゆず畑の景観



④ 柚子搾汁機



② ゆず料理



⑤ ゆずはじまる祭り



③ 柚子の古木



⑥ 慎太郎とゆずの郷祭り



⑦ 中岡慎太郎宅跡



⑩ 藩政期の植林地



⑧ 中岡慎太郎遺髪埋葬墓地



⑪ 朝日出山の大杉



⑨ 千本山



⑫ 材木流し（絵馬）（多気坂本神社）

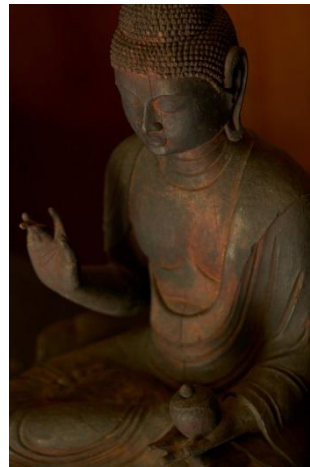


⑬ 材木流し（絵馬）（三光院）



⑯ 北寺所蔵仏像群

- ・木造薬師如来坐像



⑭ 木材生産用具（馬路村郷土館）



- ・木造釈迦如来立像



⑮ 金林寺薬師堂



- ・木造菩薩形立像 1 号



・木造菩薩形立像 2 号



・木造菩薩形立像 5 号



・木造菩薩形立像 3 号



・木造持国天立像



・木造菩薩形立像 4 号



・木造増長天立像



⑪ エヤ隧道



⑫ 明神口橋



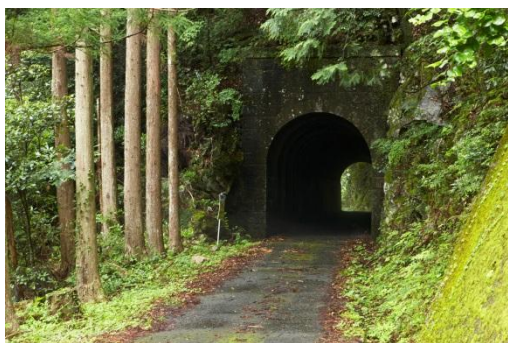
⑬ バンダ島隧道



⑭ 釜ヶ谷栈道



⑮ オオムカエ隧道



⑯ 釜ヶ谷橋



②③ 平瀬隧道



②⑥ 河口隧道



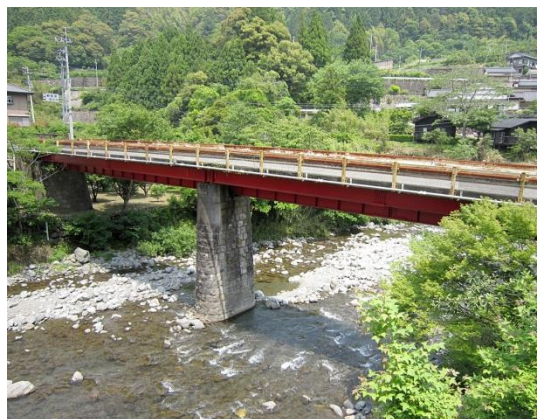
②④ 五味隧道



②⑦ 大吠橋



②⑤ 落合橋



②⑧ 井ノ谷橋



②⑨ 堀ヶ生橋



②⑩ 立岡二号栈道



③① 二股橋



③② 八幡山跨線橋



③③ 小島橋



③④ 法恩寺跨線橋



③⑤ 支線跡遺構群



③⑧ 写真資料Ⅰ 寺田文庫



③⑥ 旧馬路営林署



③⑨ 写真資料Ⅱ 四国森林管理局保存の
大正～昭和初期の林業関係写真



③⑦ 野村式機関車（動態展示）



④⑩ 岡御殿



④① 濱川家住宅



④④ 旧市川医院



④② 南商店



④⑤ 竹崎家住宅 (高田屋)



④③ 旧柏原家住宅



④⑥ 森家住宅 (旧野村茂久馬邸)



④7 濱田典彌家住宅



④8 星神社のお弓祭り

